沢活動実施の7つのポイント

その 1 ねらいを明確にした活動計画をたてましょう。

沢は、訪れるだけで大満足できる場所です。しかし、このような自然環境が減少している咋今、いつでも何度も沢にでかけるというわけにはいきません。だからこそ限られた時間でも、1回だけでも、沢の魅力が活用できるような体験を目指したいものです。それには「何のために実施するのか」そのねらいをはっきりさせることが大切です。

その2 指導者(団体責任者)は事前の実地踏査(下見)を行いましょう。

引率して沢活動をする場合、その団体の指導者(団体責任者)は実地踏査(下見)を実施しましょう。実地踏査は実際の活動場面において指導者に安心感をもたらし、事故を防ぐことにつながります。活動によって実地踏査の視点は異なりますが、沢の地形を見ながら、ねらいにあわせて「なにを(仲間づくりや自然観察等)どこで(滝や大屈曲点等)どのように(資料や助言等)」実施するのか、計画した活動を実際やってみることが一番です。

参考

この資料集の4頁~5頁に実地踏査の目安となるコースタイムを示しています。活動情報等を用いて指導者自身が実地踏査を楽しむことが、楽しい活動を提供することにつながります。

その3 事前説明や事前学習の機会を設けましょう。

沢での活動を、「ビーチサンダルや水着のみの姿で実施しようとした」、「短時間だからと安易に考えて靴下を履かなかったために靴擦れやけがをした」、という例がありました。大人でも沢という自然環境をイメージできない場合があります。どのような活動をするのか、そのためにどのような服装や装備が必要なのか、事前にその重要性を子供たちにしっかり伝える場を設けることで、事故防止になるだけでなく、充実した活動が目指せます。そのような場も含め、自然での活動を、日常での生活や事前事後の学習活動につなげる展開にすることで、活動の効果が更に高まります。



参考

沢という自然環境によって促される子どもたちの様々な興味・関心に対応できるよう、服装・装備は万全の体制で臨みましょう。

沢活動は、花山の沢と身近な水環境を比較するチャンスです。指導者の言葉がけや事前調査等の学習活動によって、違いや共通点、それぞれの良さ、身近な水環境の改善点やそのために自分ができること等を意識する機会を持つことができます。資料には、事前事後の展開にもふれています。(『P21)



その4 直前の沢情報を得てから活動に向かいましょう。

自然環境は刻々と変化しています。沢はそれが 顕著です。沢活動を実施する日が快晴でも、それ 以前に雨が降っていれば、活動に適さない水量で ある状況が見られます。前日までの天候により、 沢の状況は変化することを理解しておきましょ う。

参考

自然の家に問い合わせて、現地情報を入 手しましょう。さらに、自然の状況にあわ せて柔軟に動ける体制をつくっておく必要 があります(天候の変化を想定した事前実 地踏査と服装・装備、コース変更時の活動 展開や指導者の配置の工夫等)。

その5

安全面についての最終確認や指導は、沢の環境を見せながら行いましょう。

自然の家では、沢活動の 注意事項を「沢に到着して からスタートする前」にも、

説明するようにしています。<mark>沢の状況を見ないと、予測できない危険場面もあります。</mark>実際の沢で、動きやすい石があることや流れが速いことを子供たちに見せながら、何に注意すれば安全で楽しく 沢活動が実施できるか再確認する機会を作りましょう。



沢周辺は場所が限られていて、沢の水音もあるので説明しにくいかもしれませんが、グループに分ける、動作を交えて説明する等工夫することができます。

その6 「環境に配慮」するという視点を活動の展開に取り入れてください。

自然の家が持つ「環境に配慮」するという視点は2つの方向性があります。1つ目は、花山周辺の沢を守りたいということ。2つ目は、沢を活用することで、日常生活でも「環境に配慮」するという意識につなげたいということです。沢活動を実施してどうだったのか、活動した沢と自分の身近な環境が関係していることに気付くような展開を目指していきましょう。



活動終了後にそれぞれが感想を述べた時、「水がきれいでびっくりした」等の感想が出たらチャンスです。そこで終わらせず、なぜきれいなのか、自分の周囲の環境と比べてどうなのか等の問いかけが子どもたちの考える機会につながります。

その7 ふりかえりや事後学習の機会を設けましょう。

計画したことを実際行ってみてどうだったか、身近な環境と沢の環境の違いに気付けたか等、ねらいに合わせて活動を振り返る機会を設けましょう。それが、次への学習や活動につながります。

Check!



ふりかえって体験したことを考えたり、他の人の考えを聞いたりすることは、 沢活動をその後の活動や日常につなげるために意義があります。また、事後学習 を実施することで、ねらいが達成しやすくなる場合があります。